
それは一瞬の出来事で

太陽の道化

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それは一瞬の出来事で

【Nコード】

N6825Z

【作者名】

太陽の道化

【あらすじ】

どこにでもある朝の電車内での一幕。その一瞬は男の子の期待と戸惑いで……。

それは本当に一瞬の出来事だった。

徹夜明け、俺がいつものように電車で大学に向かう途中、突然右肩が重くなった。

（あああ、仕方ねえな……）

電車ではよくあることだ。俺も疲れているときはよくやってしまう。だが、右肩の方を見て衝撃を受けた。

女の子だった。それは別にいい。問題はその子の容姿が俺にとってドストライクだったことだ。

年はたぶん俺と同じくらい。活発そうな一重まぶた。親しみやすい高すぎない鼻。健康そうな赤い唇。そんな顔が俺の目の前五センチの距離にあった。

起こしてやろうとした手が止まる。心臓の音がドキドキとうるさい。

（俺ってこんなことで緊張するタイプだったか？）

終点まではあつと言う間だった。

「もしもし、終点ですよ」

さすがに降りないわけにもいかず彼女を揺する。

「ん……あつすいません」

「お疲れなんですか？」

「はい、こういうことよくあるんですけど誰も起こしてくれなくて……いつもここで降りられずに引き返しちゃうんですよ」

見かけによらずうつかりした子みたいだ。

「じゃあ私はこれで。本当にありがとうございます」

「あ、ちよつと」

とっさに改札に向かおうとする彼女を引き止める。

「これ、俺の連絡先。もしよかつたら」

そして、なぜか持っていた俺の名前と電話番号が書いた紙を渡す。彼女は最初キョトンとしていたが笑って受け取って、もう一度俺に礼を言ってから改札を出ていった。

「今日は遅刻だな」

その日の授業はまるで頭に入らず、飛ぶように時間が過ぎた。

そして、帰り道。駅のホームで俺の携帯電話が鳴る。ディスプレイには知らない番号。

（来たっ！）

途端にうるさく鳴り出す心臓を押さえつけて電話に出る。

「もしもし」

『まもなく、甲子園です』

「は？」

まぶしい光にゆっくり目を開けると、今朝俺が乗った駅の次の駅に着くところだった。

「夢かよ」

そのとき、右に傾いている自分の体勢に気付く。俺の右肩には眠るあの女の子の顔。俺はその頭の上にさらに頭をもたせかけて眠っていたようだ。向かいの座席に座るおばさんが俺たちを見て微笑ましそうに笑っている。

胸の高鳴りはまだ収まっていなかった。俺は気恥ずかしさを隠すように、とりあえず懐からメモ帳を取り出し、俺の名前と電話番号を書いておくことにした。

「今日は遅刻だな」

俺はただ、誰に言うでもなくそう呟いた。

(後書き)

恋愛小説というものに初めて挑戦してみました。やっぱり難しいですね。上手く書けているか不安です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6825z/>

それは一瞬の出来事で

2011年12月23日00時56分発行